

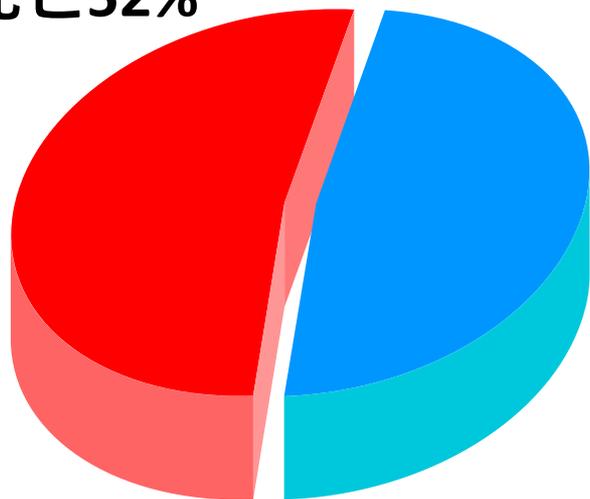
救命胴衣を着用しよう

着用すれば助かる命があります！

漁船からの海中転落者の生存／死亡率（平成15～29年の平均値）

【非着用】

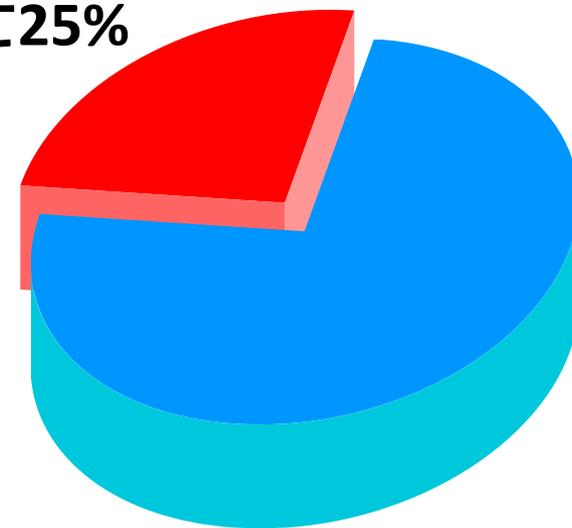
死亡52%



生存48%

【着用】

死亡25%



生存75%

死亡の割合は
約1/2に！

救命胴衣を着用すれば万が一の際にも助かる確率が高くなります。
自分の命を守るため必ず着用しましょう。

救命胴衣を着用しよう

あなたの働き方に合うタイプを見つけましょう

漁労作業中でも着用しやすい機種が開発されています。

代表的な救命胴衣のタイプ



固型式

発泡樹脂で浮力を得ます。安価で丈夫。動きやすくするため折目を入れるなどの工夫をしている機種も多くあります。



膨脹式（首掛け型）

固型式よりコンパクト。落水時にはガスポンペで気室を膨らませて浮力を得ます。



膨脹式（腰ベルト型）

固型式よりコンパクト。落水時にはガスポンペで気室を膨らませて浮力を得ます。



気体密封式

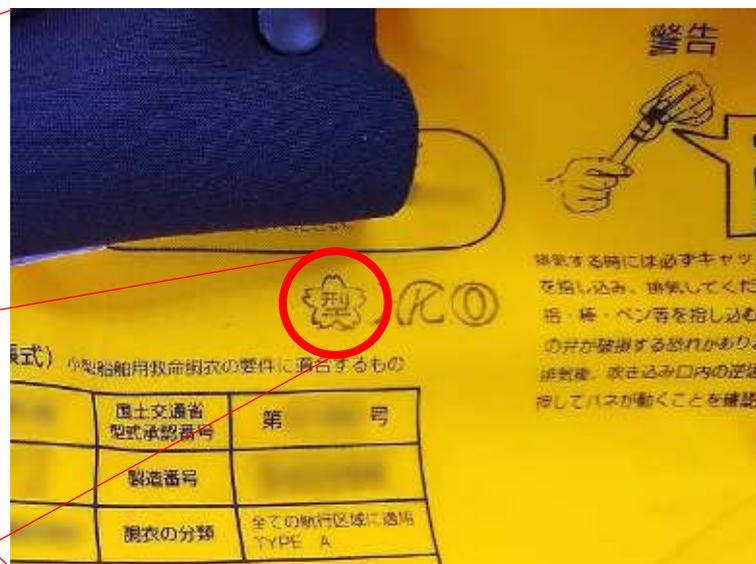
固型式に似ていますが、空気を封じ込めた袋が入っているため柔らかく動きやすくなっています。

2018年2月に救命胴衣着用義務範囲が拡大されました。乗船時には必ず桜マーク（国土交通省型式承認試験及び検定への合格の印）が付いている救命胴衣を使用しましょう。

救命胴衣を着用しよう

「桜マーク」付きの救命胴衣を使いましょう

桜マーク = 国土交通省型式承認試験及び検定に合格した製品であることを示す印



桜マークの表示例

膨脹式では気室に表示されていることもあります。

乗船時には**桜マーク付きの救命胴衣**を着用する義務があります。

いざというときに**命を守る道具**です。
機能・品質が**確かな製品**を選びましょう

救命胴衣を着用しよう

膨脹式の膨らみ方を確認しておきましょう①

【首掛け式の一例】



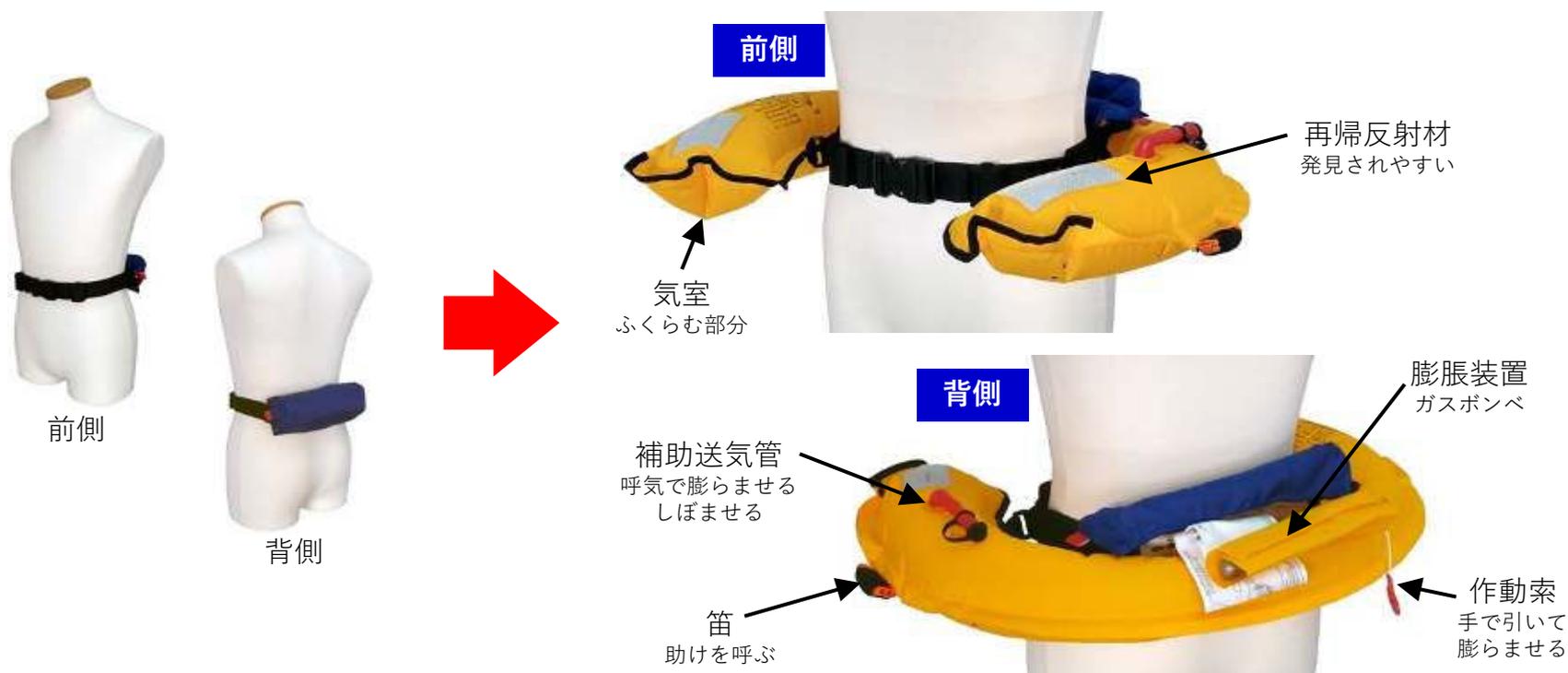
膨脹式の救命胴衣はいざと言うときのために膨らみ方を知っておくことが重要です。

膨脹式は機種によって膨らみ方が異なる場合があります。
点検を兼ねて膨らみ方も確認しておきましょう。

救命胴衣を着用しよう

膨脹式の膨らみ方を確認しておきましょう②

【腰ベルト式の一例】



膨脹式の救命胴衣はいざと言うときのために膨らみ方を知っておくことが重要です。

膨脹式は機種によって膨らみ方が異なる場合があります。
点検を兼ねて膨らみ方も確認しておきましょう。

手すりを設置しよう

船べりには手すりを設置しましょう。
海中転落や転倒の防止になります。



手すりの設置例①



手すりの設置例②

海中転落時に自力で復帰する工夫

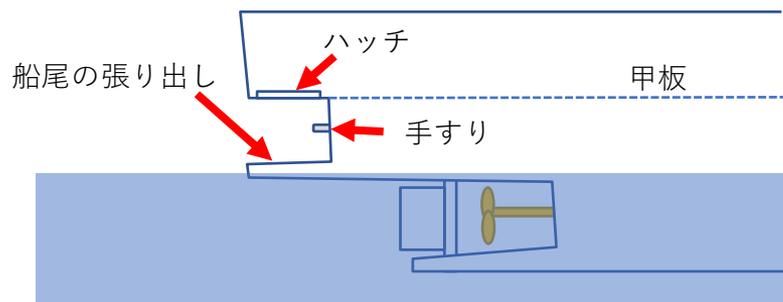
海中転落時に自力で乗船する工夫の例



ハッチ



手すり



船尾の張り出しを足場として利用し自力で乗船できる仕組みになっています。

乗船の手順



手すりにつかまって船尾の張り出しに乗る



ハッチを押し開けて甲板に登る



乗船完了

海中転落時に自力で船縁から乗船するのはまず不可能とされています。特に一人乗りや少人数の漁船の場合には自力で乗船できるような工夫が有効です。船の仕様に合わせた方法を検討してみましょう。

ひっかかりにくい救命胴衣を選ぼう

漁網を使う漁業（特に刺網など）では網にひっかかりにくい服装が必要です。
救命胴衣もひっかかりにくいものを選びましょう。



ひっかかりにくい製品の例①

ひっかかりやすいファスナー部分に
カバーを装備



ひっかかりにくい製品の例②

手動索を本体の裏側に固定できる



非常停止装置を設置しよう

ネットウィンチへの巻き込まれは命に関わる危険な災害です。
非常停止装置を設置して巻き込まれるリスクを減らしましょう。



非常停止装置の設置例①



非常停止装置の設置例②

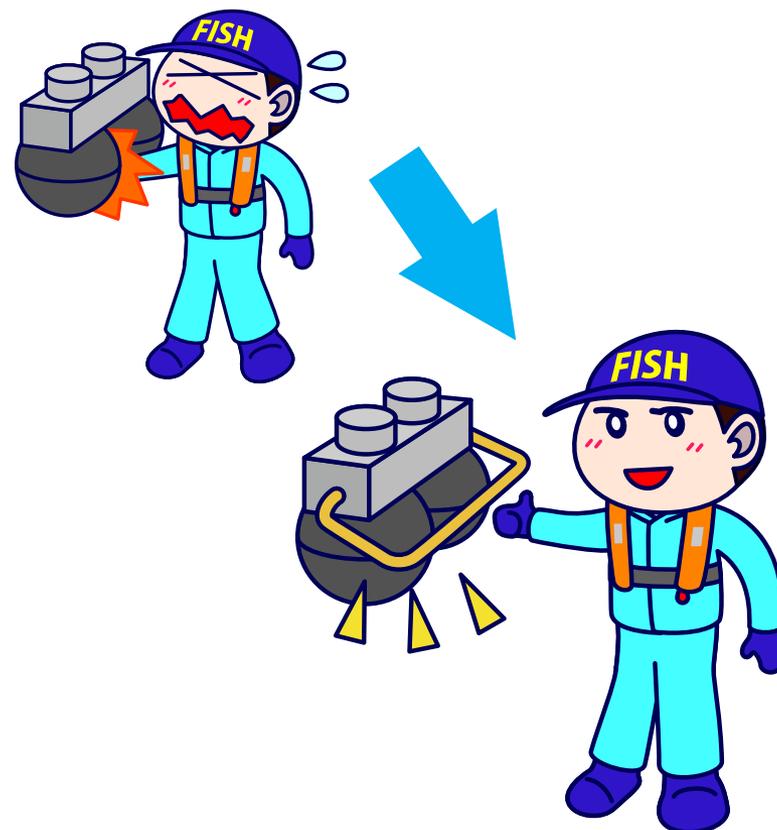
ネットウィンチ上のバーやひもを引っ張ると、電氣的に（あるいは物理的に）クラッチを外すなどしてネットウィンチの巻き取りを停止させる仕組みのものが一般的です。

非常停止装置を設置しよう

ボールローラーへの巻き込まれは命に関わる危険な災害です。
非常停止装置を設置して巻き込まれるリスクを減らしましょう。



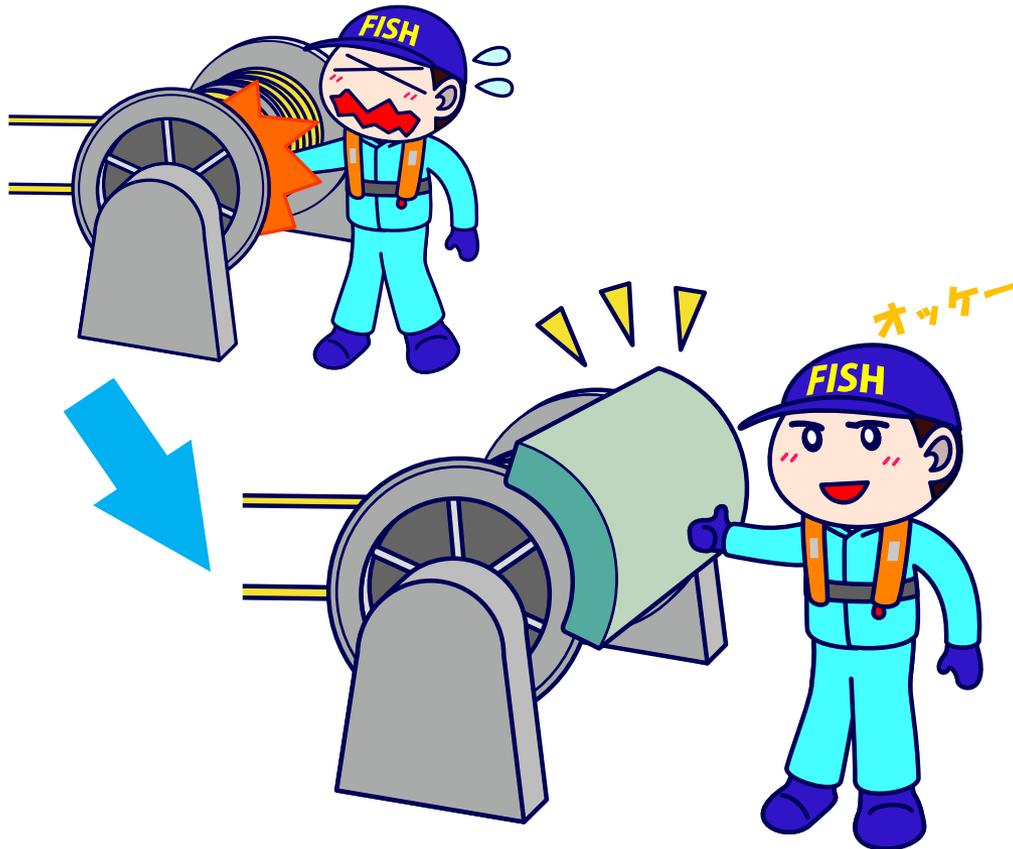
非常停止装置の設置例



非常停止装置のバーに力が加かると油圧を下げて停止させるものが一般的です。
詳しくはお使いのボールローラーのメーカーにお問い合わせください。

ウィンチにカバーをつけよう

ウィンチへの巻き込まれは命に関わる危険な災害です。
カバーを設置して巻き込まれるリスクを減らしましょう。



普段 漁具などが出入りしない側に
カバーを付けましょう



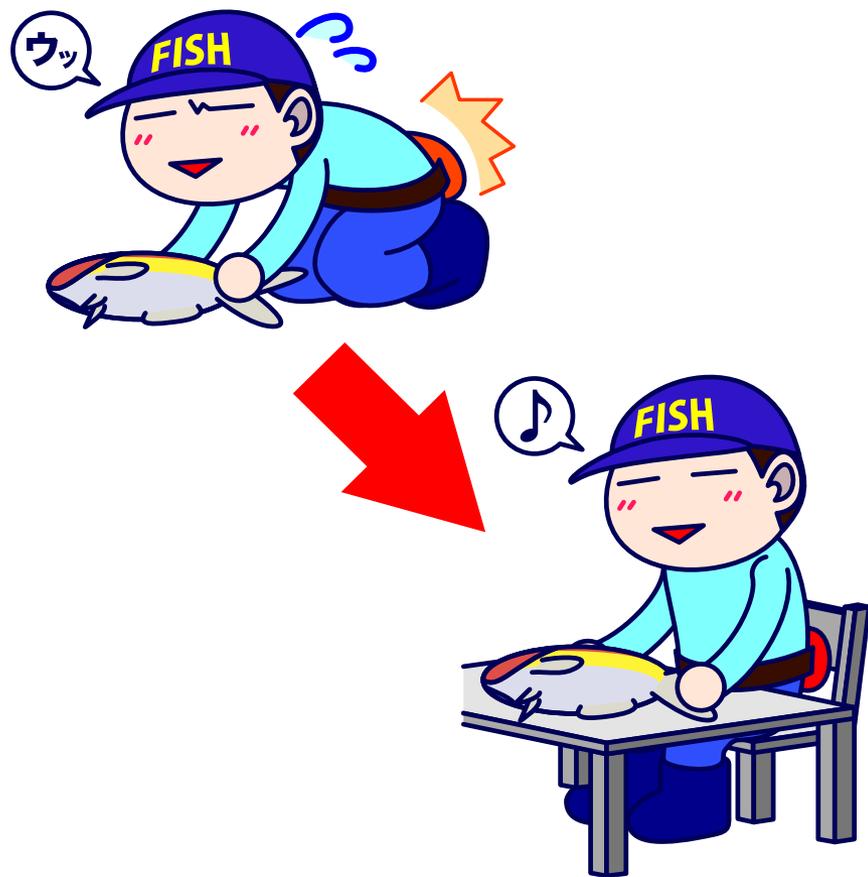
ワープ（曳網）ウィンチに設置したカバーの例



ネットウィンチに設置したカバーの例

選別作業台を設置しよう

床置きでの長時間作業は足腰などを痛める原因になります。
選別作業台を採り入れて足腰にやさしい姿勢で作業しましょう。



選別作業台の設置例

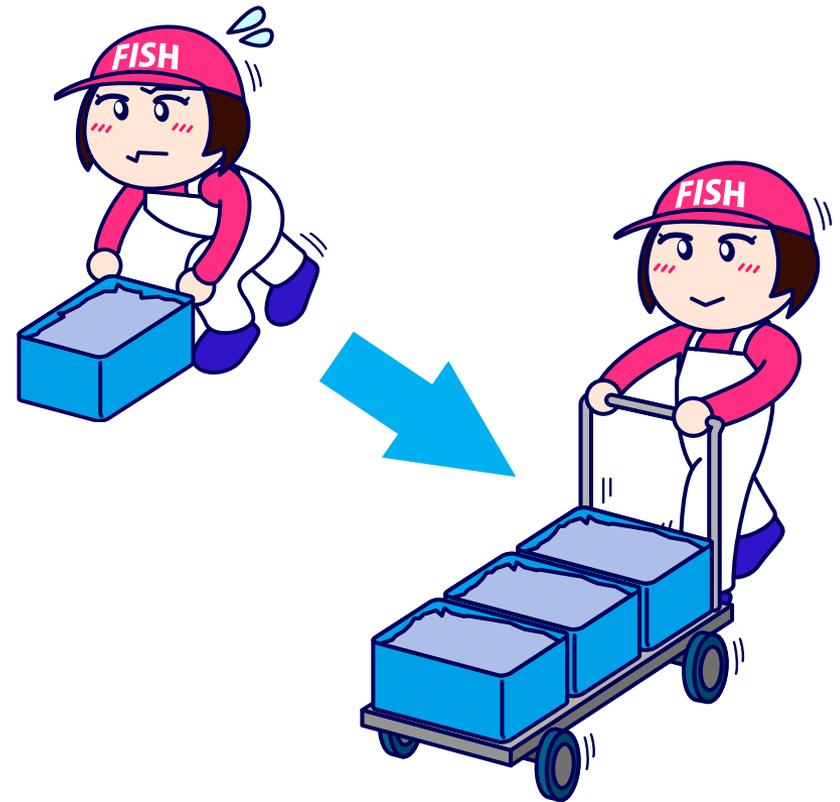
台車を使ってカゴを運ぼう

しらす船びき網漁業では規格サイズのカゴが使われます。
カゴの大きさに合った台車を使うことで作業の負担軽減や能率向上がはかれます。



台車の例

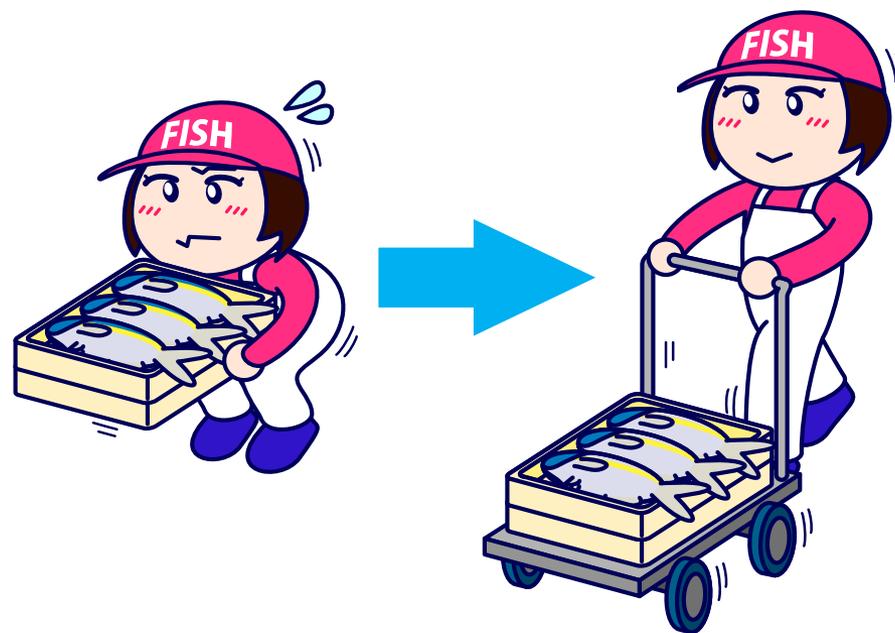
(カゴの大きさに合わせた台車幅になっている)



カゴの上げおろし回数をなるべく少なくしましょう。
出荷（トラック積込）の直前まで台車に積んだままにできれば理想的です。

台車を使って荷物を運ぼう

荷物を人力で運搬すると身体に負担がかかります。
台車を活用して負担を減らしましょう。



普段扱っている荷物に合う台車を使いましょう。
一人で無理なく取り回せる大きさの台車にしましょう。

AIS*を設置しよう

AISは自動的に自船の位置を発信するため
AISを搭載する他船に発見されやすく 衝突事故の回避に役立ちます



AIS搭載例

使用している
漁業者の声

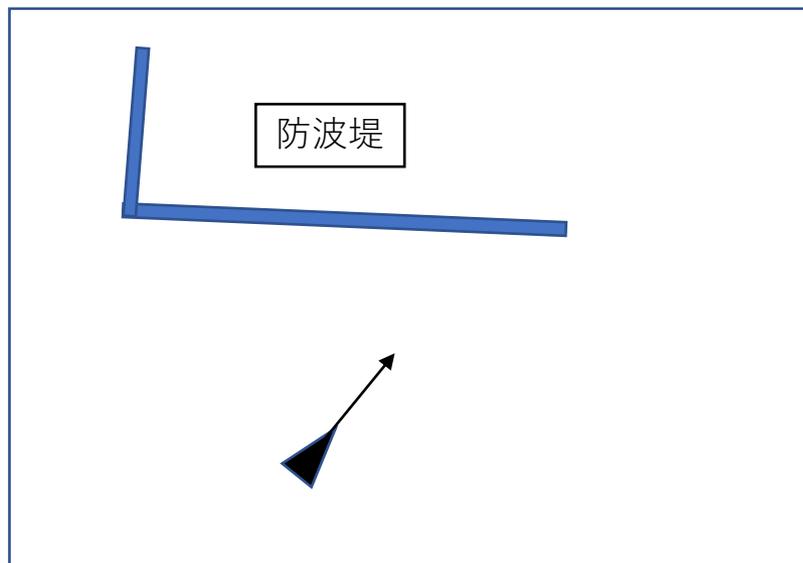


大型の商船などが
AISで早めに自船を
見つけてくれるので
衝突回避に役立っています

曳網などで操縦が制限されている漁船でも
できるかぎり相手船の針路を避けなければなりません
AISで相手船に早く気付いてもらえれば衝突のリスクを減らすことができます。

AISを設置しよう(2)

自社の船の位置が陸上からも把握できるので危険な状況をいち早く察知できます



構造物に近づいているのに進路も速力も変わらない。念のため連絡してみよう!



AISの情報と海図などの情報を重ねて表示することで、危険な状態の船に警告が出せる可能性があります。

道具を整理しよう

道具などを床に放置したままだと転倒の原因になります。
整理して作業しやすい環境にしましょう。

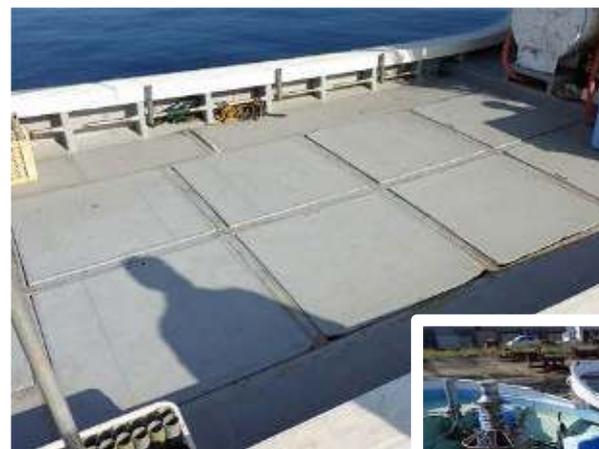


整理整頓された甲板の例

転倒は漁船上でもっとも頻繁に起こる労働災害のひとつです。
しっかり対策をして転倒災害を未然に防ぎましょう。

甲板の段差をなくそう

床の段差はつまずいて転倒する原因になります。
船の建造やリシップなどの機会に段差のない甲板にしましょう。

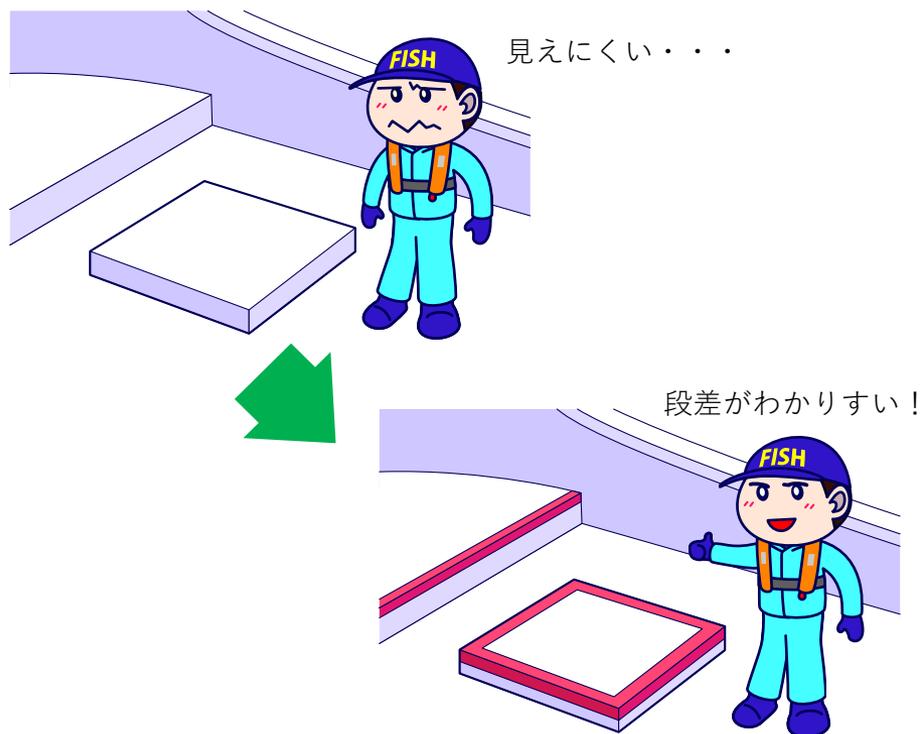


段差の少ない甲板の例

転倒は漁船上でもっとも頻繁に起こる労働災害のひとつです。
しっかり対策をして転倒災害を未然に防ぎましょう。

甲板の段差に目印をつけよう

床には段差がないのが理想的ですが
すぐに解消できない場合には段差を色分けするなどして目立たせましょう。



魚倉ふたの塗り分け例

転倒は漁船上でもっとも頻繁に起こる労働災害のひとつです。
しっかり対策をして転倒災害を未然に防ぎましょう。

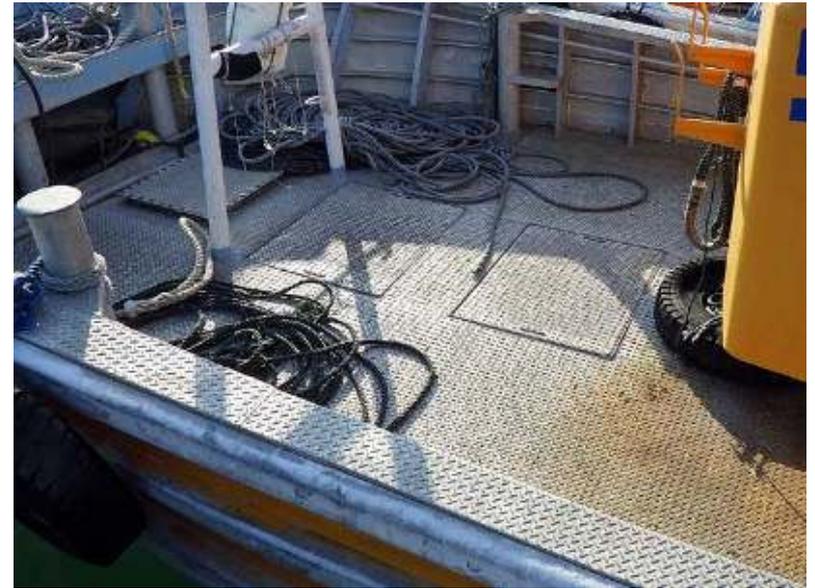
滑りにくい床面にしよう

細かい凹凸を作り出す塗装などによって滑りにくい床面にしましょう。



※凹凸が見えやすいように写真を調整しています

FRP船における床面加工の例



アルミ船における縞板採用の例

転倒は漁船上でもっとも頻繁に起こる労働災害のひとつです。
しっかり対策をして転倒災害を未然に防ぎましょう。

保護具を着用しよう

万が一の転倒や衝突などに備えてヘルメットなどの保護具を着用しましょう。

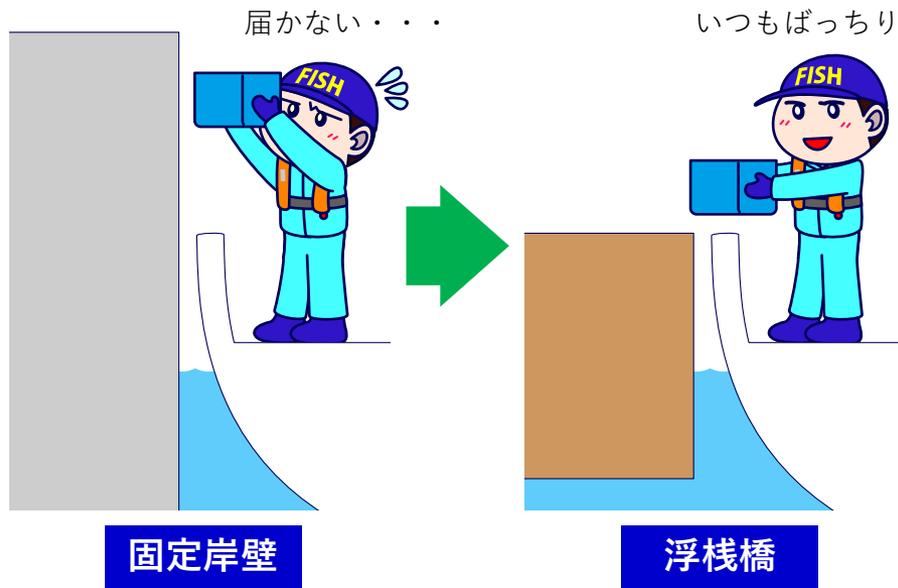


保護具の例

現場の実態に合わせて適切な保護具を着用しましょう

浮棧橋を使おう①

漁船と岸壁の高さが合わないと
荷物の積み下ろしの際の負担が増すばかりでなく
乗下船時の転倒や転落の原因にもなります。



潮位によって作業や
乗下船の条件が変わる
(場合によっては危険)

常に一定の高さ
安全な作業・乗下船



浮棧橋の例

浮棧橋を使用すれば常に一定の高さで作業や乗下船ができ
作業負担ばかりでなく転倒や転落のリスクを減らすことができます

浮き棧橋を使おう②

浮き棧橋は乗下船時の災害予防や、荷物の積み下ろしの際の負担軽減に有効です。



浮き棧橋の例

※写真の追加・変更を検討

転倒は漁船上でもっとも頻繁に起こる労働災害のひとつです。
しっかり対策をして転倒災害を未然に防ぎましょう。

浮き桟橋を使おう③

規格サイズのかごで陸揚げを行うなどの場合には
コンベアなどの運搬用機械設備も有効です。
作業安全や身体負担の軽減につながります。

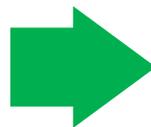


コンベア設備を搭載した浮き桟橋の例

転倒は漁船上でもっとも頻繁に起こる労働災害のひとつです。
しっかり対策をして転倒災害を未然に防ぎましょう。

タラップに手すりを設置しよう

乗下船時の転倒や海中転落の防止に

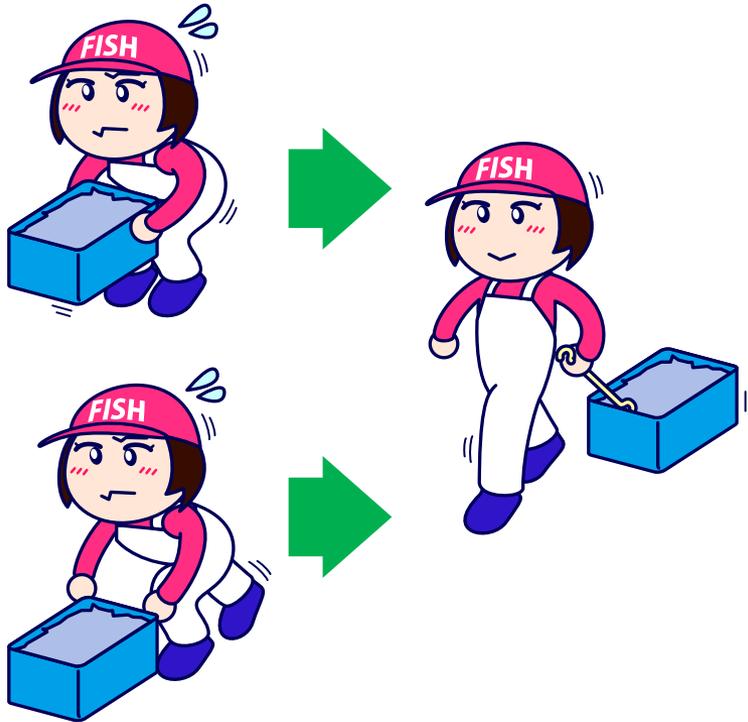


「手すり」以外にも色々な工夫の方法があります。
「タラップの幅を広げる」「滑り止めの加工をする」など)

転倒や海中転落が起きるのは船上ばかりではありません。
気の緩みやすい帰港時、岸壁と漁船に高低差があるときなどは特に要注意です。
安全性の高いタラップを使用して乗下船時のトラブルを未然に防ぎましょう。

手かぎを利用しよう

床に置かれた荷物を手かぎでひいて運ぶことで
身体負担を軽減することができます



床に置かれた荷物を持ち上げたり、前かがみで押して運搬したりすると足腰に負担がかかりますが、手かぎを使うことで負担を軽減できます。

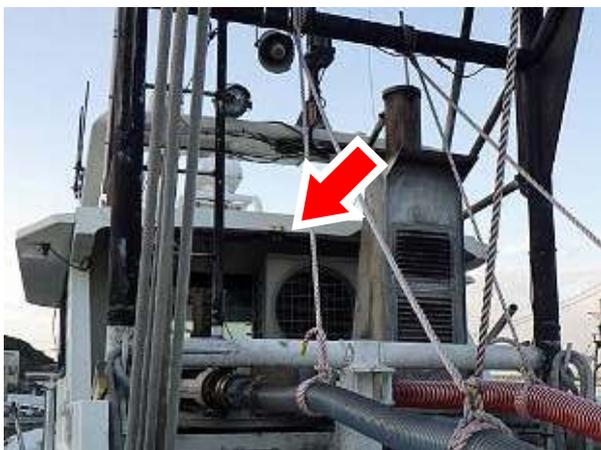


手かぎを使った運搬の例

床に置かれた荷物を扱うときは前かがみになりがちです。
作業方法を工夫してなるべく前かがみにならないようにしましょう。

監視カメラで作業を確認しよう

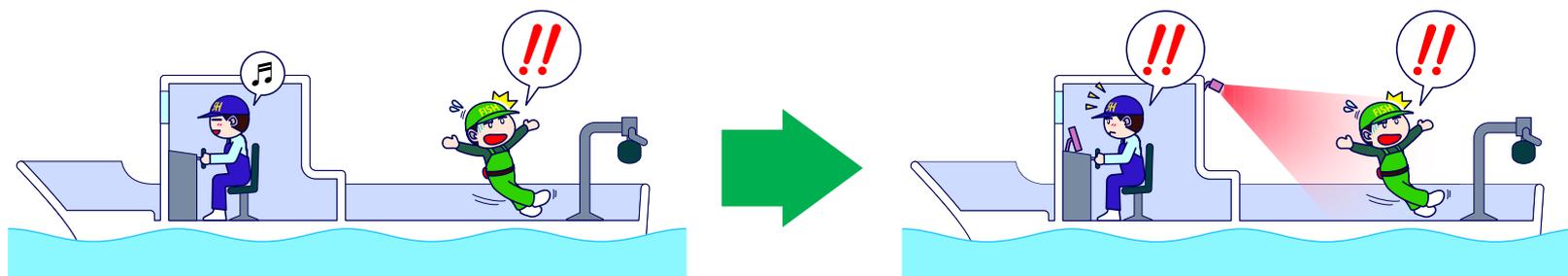
監視カメラを活用して甲板作業をブリッジで確認



ブリッジ後方に設置されたカメラ



ブリッジ室内のモニタ

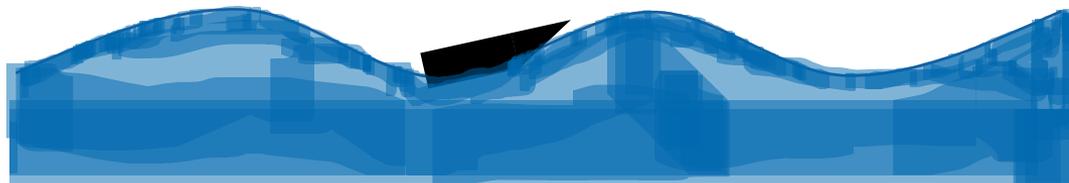


ブリッジで船尾甲板の様子を確認することで危険の早期察知！

監視モニタを活用して甲板作業を見える化することで
災害の未然防止や 災害発生の早期発見につながります。

危険予測をしよう

日々変化する状況に合わせて安全な操業を心がけましょう



今日は波が高い。
小さい船はレーダーに
映らないかもしれない!

いつもより注意して
周りを見よう!



毎日出ている海だからこそ「今日はいつもと違うかもしれない」という意識が重要です。
万が一の事態は万に一つ起こってしまうと考えて安全な操業を心がけましょう。

定置網に適したライフジャケットを



ライフジャケットの着用は
命を守ることに直結します

定置網漁業の場合は
邪魔にならずに安全性が高い
首掛け式が適しています

ライフジャケットは必ず着用してください

ヘルメットの着用を徹底



定置網は頭上に重いものがあることが多い
漁業種類です

海が荒れていたりすると
危険を見逃してしまうかも

ヘルメットの着用で命を守りましょう

クレーン操作を安全に

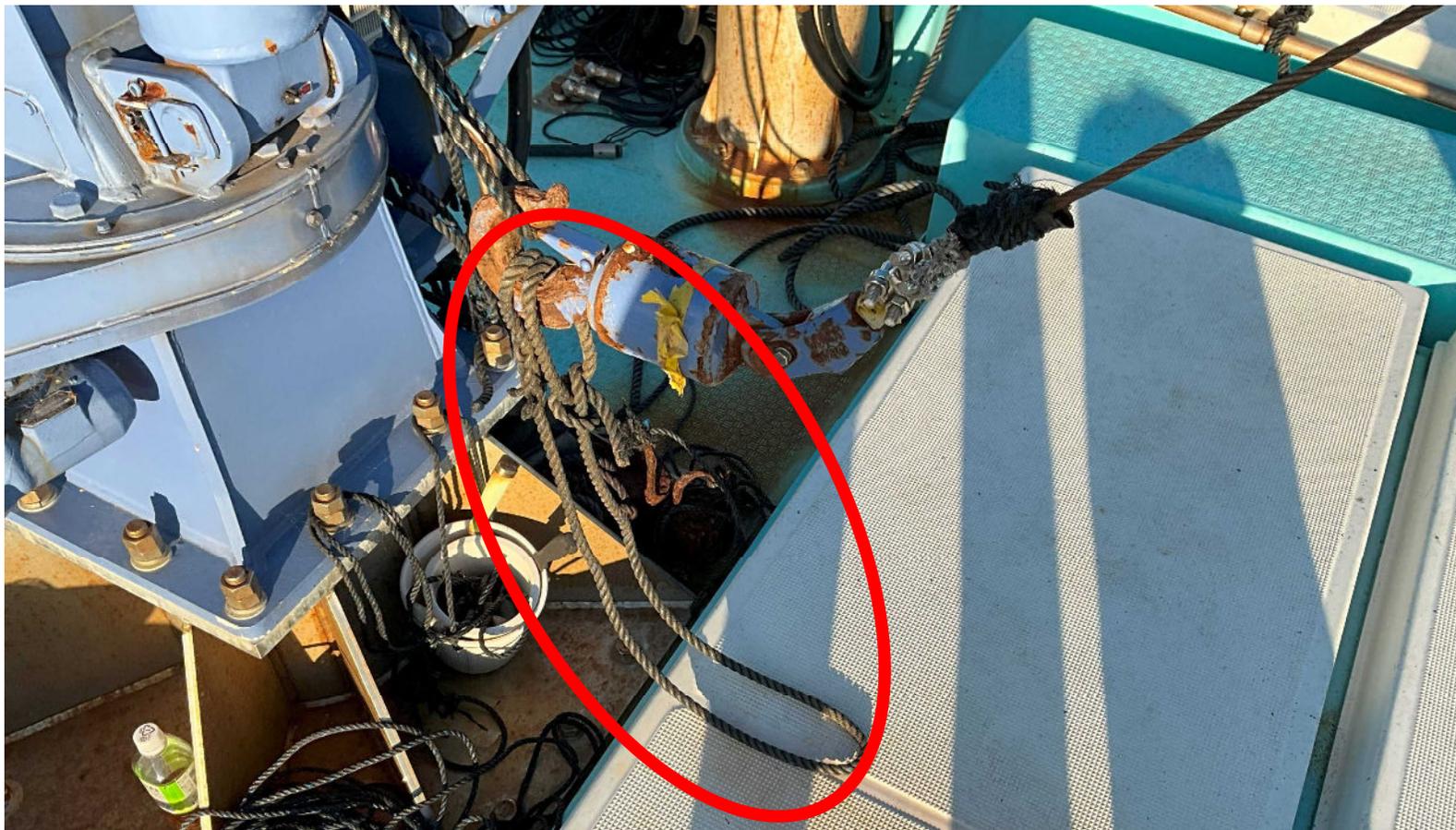


操作時に姿勢が不安定にならないように
イスに座った事例

いつもは安全に作業が出来る
けど疲れているときや海が荒
れているときはふらつくかも
しれません

姿勢を安定させて疲れないようにしましょう

クレーンの補助をしよう



フックは重くて
尖った金属の塊です

船の揺れとクレーンの揺れ
に自分のふらつきが
重なると危険です

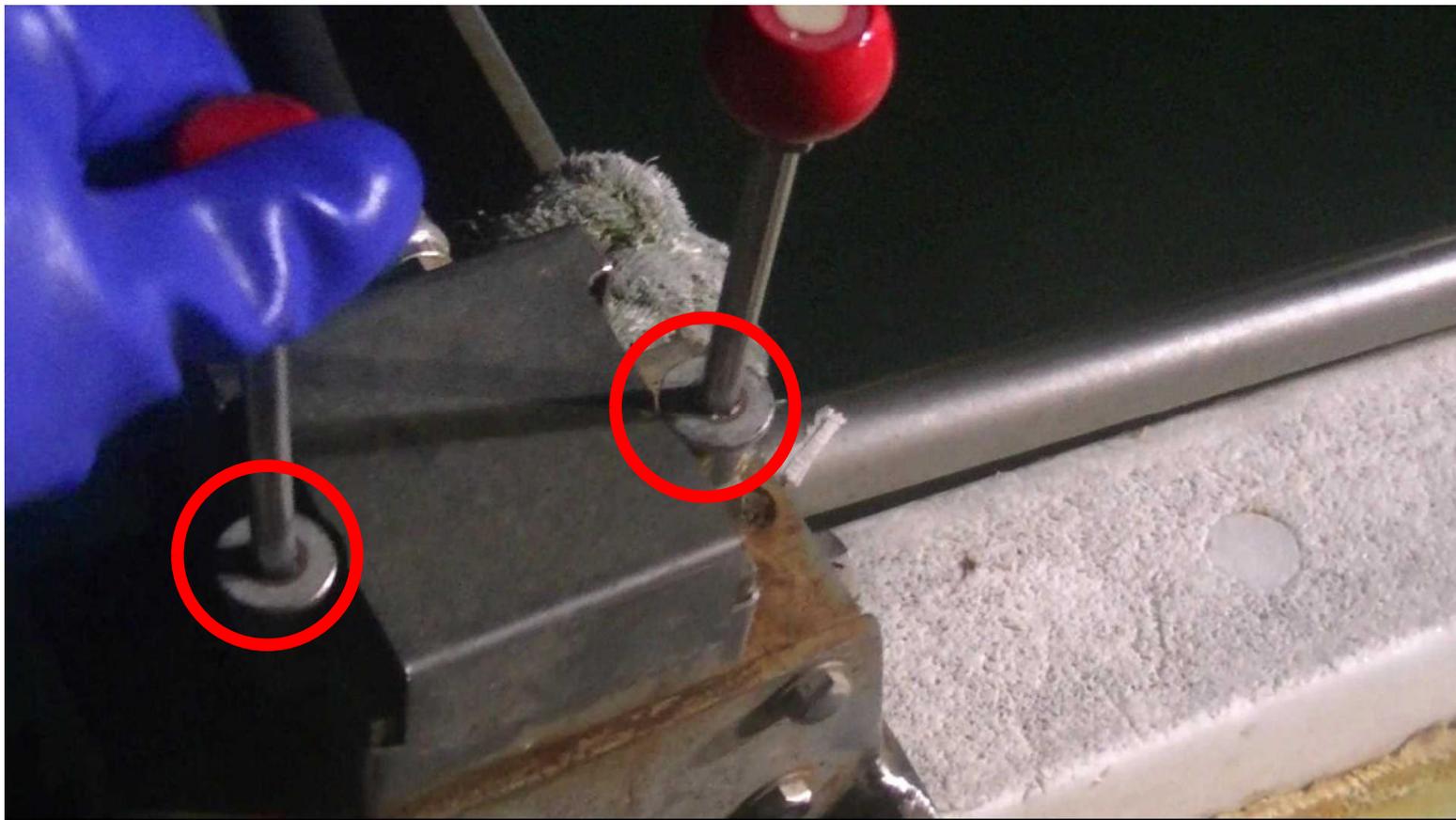
ロープを持って人やモノにあたらないよう補助しましょう

回転部を目立つようにしましょう



怪我をする可能性の高い回転部は目立つようにしましょう

レバーの誤操作を防ごう

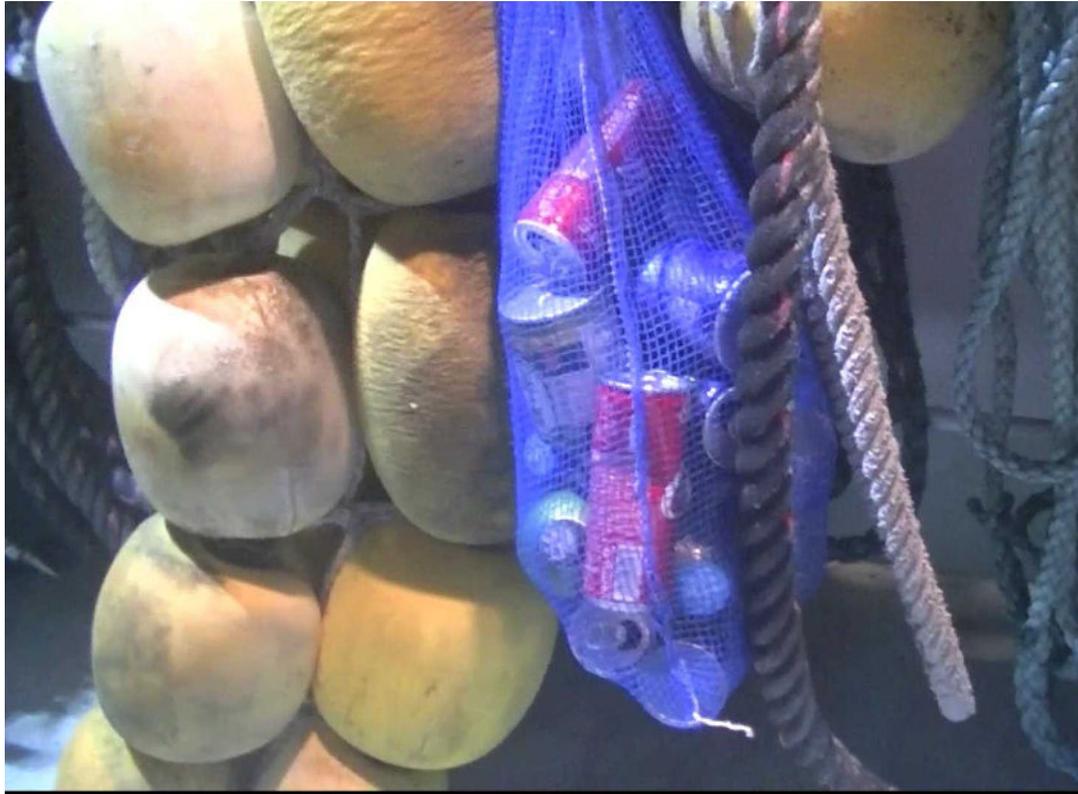


レバーにストッパーを付ける
対策をした事例

とっさに手をついてしまうと
誤操作をしてしまう

機械の誤操作により怪我をすることがあります

ゴミ袋を用意しよう



整理整頓することで安全の意識が高まります

作業の効率性を上げよう



重いシャックルから
軽いロープリングに
変更した事例

軽くなったことで
巻き上げ機の負荷が減少
船体を痛めることも減った

安全性は効率性につながります

作業中だと分かるように

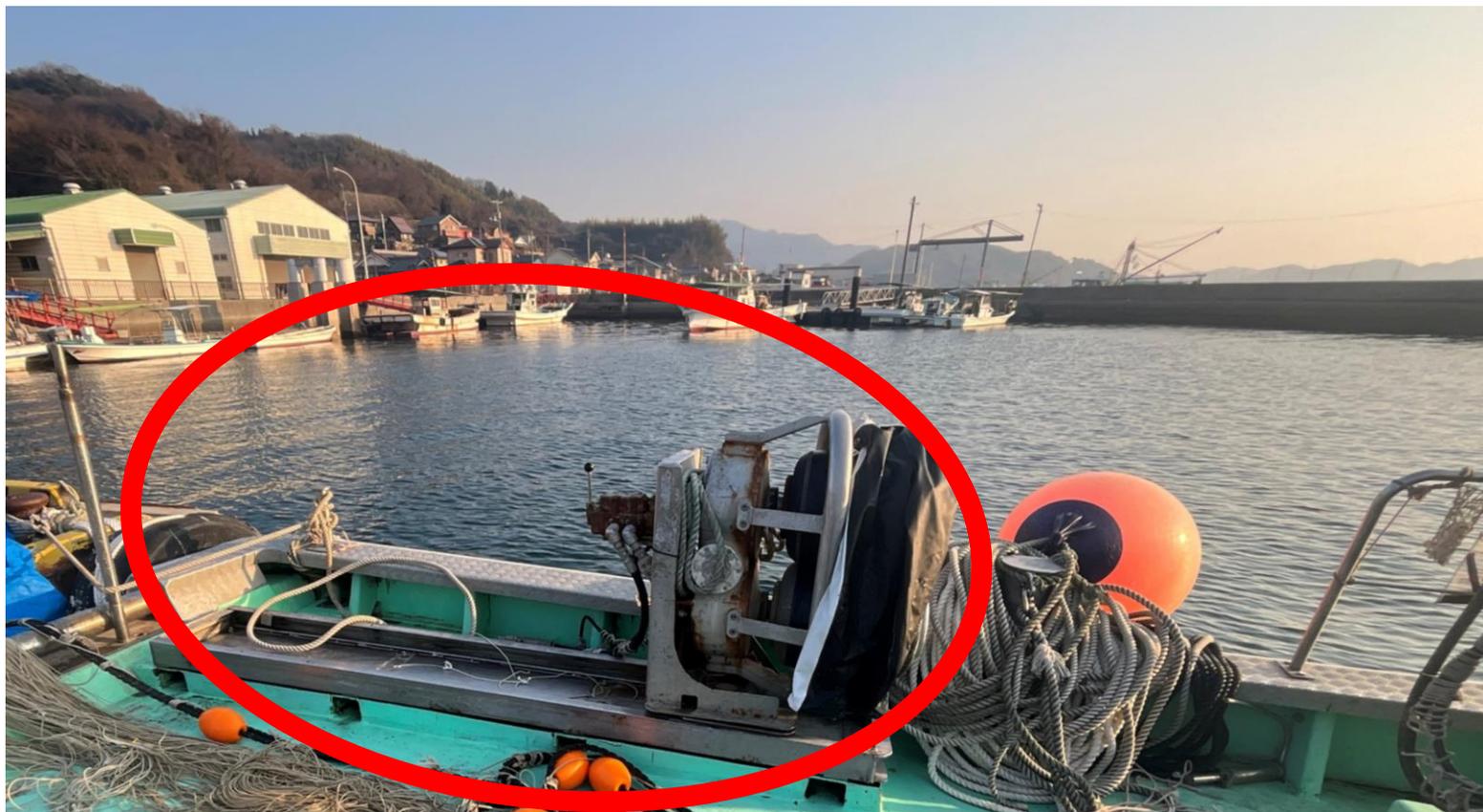


巻上機を動かしているときに
ランプを点灯させて
分かりやすくした例

漁撈機械を動かすときは
周りの船も作業中だと
分かるので安心です

危険な作業中であることが分かるようにしましょう

作業場所を広く取ろう



巻き上げ機を移動できる
ようにした事例です

使わない道具はしまっておき
作業場所を広くとると
移動もしやすく便利です

作業場所が広いと安心して移動や作業ができます

熱中症に気を付けよう



作業中に直射日光を
浴びないように
日よけを付けた事例

熱中症で気分が悪くなる
事例が増えています

水分を取るなど出来る対策をしっかりと取りましょう

必要な資格の取得や講習の受講を

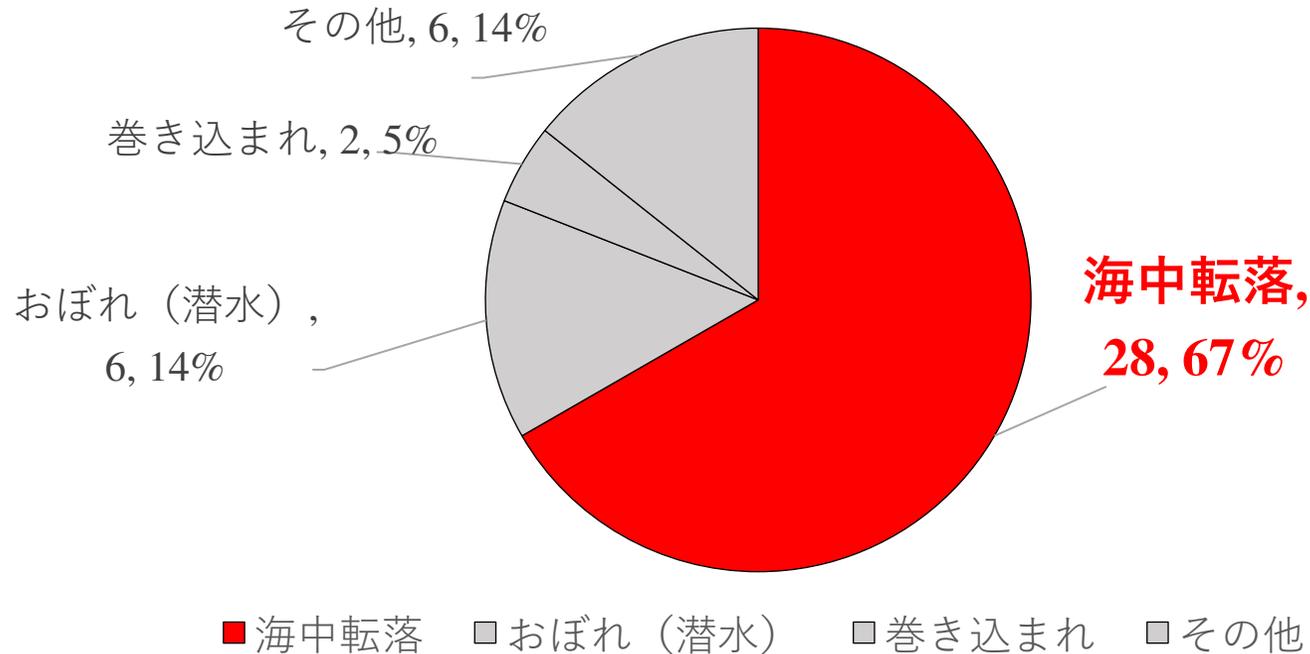


揚貨装置・巻上機を扱う
作業には資格の取得や講習の
受講が必要な場合があります

一歩間違えば
重大な事故につながる
機械です

危険な作業を行うためには資格の取得や講習の受講が必要です

海中転落に気を付けよう



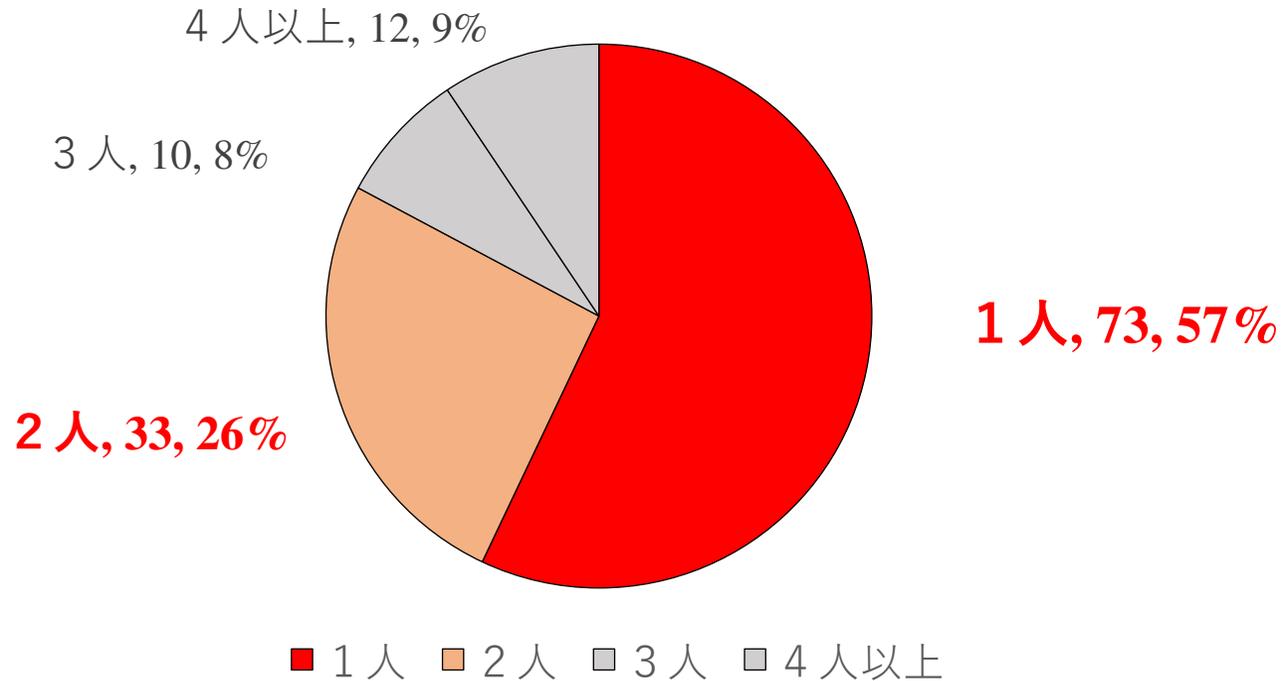
R4-R5における一人親方の死亡事故原因
(水産庁調べ)

海中転落は最も死亡に
つながりやすい事故です

自分の落下を防ぐ準備と
仲間を助けられる準備も

気象・海象を見て無理な操業はやめましょう

少人数での作業に気を付けよう



R4-R5における一人親方の労災時の乗船人員数
(水産庁調べ)

労働災害の80%以上は
1人か2人の時に
発生しています

少ない人数で作業をする時は
十分注意しましょう

トラブルがあったときの対応を決めておくと安心です